

ナイジェリア、ケビ州でラッサ熱が流行

2010年5月19日 ProMED 情報 (Independent online、SAPA/AFP report)



5月18日、同国保健当局者は、この1カ月に新たにラッサ熱が、北ナイジェリアのケビ州 Kebbi で発生し、数十名が感染し、17名が死亡したと述べました。

患者は、3つの地区で発生しましたが、州都ビルニン・ケビ Birnin-Kebbi での患者が最も多く9名ということです。

世界保健機関(WHO)は、南アフリカ、オランダ、ナイジェリアの商業中心都市ラゴス Lagos から医療専門家を、対応のために派遣しました。

主に、ギニア、リベリア、ナイジェリア、シエラレオネでは、毎年およそ200名のラッサ熱の死亡患者が、発生しています。

〔ProMED 調整者〕

ラッサ熱は、西アフリカで発生する急性疾患で1~4週間で発症します。

1950年代に初めて報告されましたが、この疾患の原因となるウイルスは、1969年に初めて同定されました。アレナウイルス科に属する一本鎖RNAウイルスです。ラッサ熱は、ギニア、リベリア、シエラレオネ、ナイジェリアの一部では風土病として知られていますが、その他の西アフリカ諸国でも存在すると考えられます。

感染者の80%は無症状に経過しますが、残りの20%は重症化し、肝・脾・腎などの多臓器を侵します。ラッサ熱ウイルスの宿主は、げっ歯類の一種のマストミス *Mastomys* です。ラッサ熱ウイルスに感染したマストミスは病気になりませんが、尿や排泄物などでウイルスをまき散らします。

ヒトは、感染したマストミスに直接接触したり、排泄物を吸入して感染します。